

第3章 未来へ向かって

1 将来テーマ

本市の目指す都市像は、秦野市総合計画において以下のように定められています。

水とみどりに育まれ 誰もが輝く 暮らしよい都市(まち)

この都市像を環境面から補完するため、社会的・自然的状況を踏まえるとともに、次世代に恵み豊かで良好な自然環境を持続可能な形で引き継いでいけるよう、将来テーマを次のとおり設定します。

恵み豊かな環境を 共にはぐくみ 未来へつなぐまち



2 望ましい環境未来像

第1節

水とみどりの環を守り、育み、生かすまち
～共生型社会の実現を目指して～

本市は、丹沢山地をはじめとする森林に囲まれ、市街地の周辺は里山林が広がり、緑豊かな環境を創出しています。

森林などに降った雨水は、秦野盆地の地下に浸透し、豊富な水源、湧水や里川に生まれ変わって田畑を潤すとともに、動植物の生息も育みます。

このように、自然が生み出す恩恵を未来にわたって享受できる共生社会を目指すため、「水とみどりの環を守り、育み、生かすまち」を望ましい環境未来像に掲げます。

第2節

地球環境の保全と変化への備えに地域から取り組むまち
～脱炭素型社会の実現を目指して～

地球温暖化対策に代表される地球環境の保全には、多様な主体が意識と行動を一にした取組が必要です。特に、エネルギー需給の意識転換等により二酸化炭素の発生を抑制する緩和策と、影響が刻々と甚大化している気候変動への適応策の両面からの対策が求められています。

このように、緩和策と適応策の両輪の取組により形成される脱炭素社会を目指すため、「地球環境の保全と変化への備えに地域から取り組むまち」を望ましい環境未来像に掲げます。

第3節

ごみの減量・資源の循環により環境負荷が小さいまち ～循環型社会の実現を目指して～

ごみと資源の分別収集の定着と新たな分別区分（古紙類や草木類）の追加により、可燃ごみの排出量は減少傾向にあります。

一方、食品ロス^(*)や海洋プラスチックなどが新たな課題と認識され、特に、非プラスチック製商品の使用を促す行動（我が国ではレジ袋の有料化など）は、国際的な動きに発展しています。

このように、ごみの発生抑制、資源循環、適正処分により天然資源の消費を抑え、環境への負荷ができる限り低減させる社会を目指すため、「**ごみの減量・資源の循環により環境負荷が小さいまち**」を望ましい環境未来像に掲げます。

第4節

安全・安心・快適に暮らせるまち

～快適で美しい都市空間の実現を目指して～

本市は、表丹沢に代表される豊かな自然と、その地に根付いた歴史や文化の継承のなかで形づくられてきました。

しかし、開発等による都市化（宅地や大規模建物の造成、交通利便の向上など）、あるいは、ポイ捨てや不法投棄の影響は、山並みや水辺空間といった秦野らしさを象徴する原風景を失わせるとともに、大気汚染や騒音などの人々の生活により生じる公害も誘発しています。

このように、古き良き原風景を都市の機能と調和させ、快適で美しい都市空間の創造を目指すため、「**安全・安心・快適に暮らせるまち**」を望ましい環境未来像に掲げます。

第5節

協働で広げる多様な主体が輝くまち

～気づき、学び、行動できる社会の実現を目指して～

第1節から第4節までに掲げた望ましい環境未来像を実現するためには、市民や事業者等の多様な主体との協働は不可欠です。そして、気づきや学びの意識を共有し、行動に繋がる仕組みづくりが必要です。

このように、環境の保全という普遍的なテーマについて、関わる誰もが自分事として認識し、輝きを持って活動できる社会を目指すため、「**協働で広げる多様な主体が輝くまち**」を望ましい環境未来像に掲げます。

3 重点戦略と横断的視点

重点戦略

地域循環共生圏の構築

【日本発の脱炭素化・SDGs構想】



気候変動への適応

【SDGs・ゴール13】



図6 重点戦略に位置付けた事項(≒着眼点)

序章で示したとおり、気候変動や温暖化、海洋プラスチックなどのごみ問題や生物多様性の損失による生態系サービスの低下など、地球環境が直面している状況は多分野に及び、その度合いや規模は危機的な状態といっても過言ではありません。より一層の国際的な協調と協力が求められていると言えます。

そこで、本市では、こうした地球規模の環境課題に対して、国内外が推進している取組(図6)に着眼し、それぞれが描く姿を重点戦略に位置付けるとともに、代表的な取組に反映させながら地域課題の解決に応用していくこととします。

横断的視点

はぐくむ
環境を支える組織や仕組み、意識を『はぐくむ』
はぐくむ

そなえる
気候変動などによる地球環境の変化に『そなえる』
そなえる

つなげる
環境・文化を守り次世代に『つなげる』
つなげる

図7 3つの横断的視点

重点戦略はもとより、望ましい環境未来像を実現する基本施策を着実に推進させ、豊かで良好な自然環境を持続可能な形で次世代に継承していくためには、環境課題を横断的かつ持続的に捉えることが重要です。

そこで、市民・事業者等・行政が協働できる組織や仕組み、意識を『はぐくみ(む)』、気候変動などによる地球環境への脅威や変化に的確に『そなえ(る)』、秦野の環境や文化を守り、持続可能な形で次世代に『つなげる』の視点を基盤に、施策を展開していきます。

4 計画の体系

